

令和 7 年度当初予算（案）

～「突き抜ける世界都市」の実現に向けた本格展開～

令和7年2月5日

京都市
行財政局 財政室

- 1 市政運営の方針
- 2 当初予算の主なポイント
- 3 参考 1：中長期の財政収支試算
- 4 政策ごとの主な取組
- 5 参考 2：リーディング・プロジェクトごとの予算額
- 6 参考 3：項目別の予算額
- 7 令和 6 年度 2 月補正予算（案）



市政運営の方針



(1) 目指すまちの姿

すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市 京都」

- まち中に夢中になれるものが満ちあふれ、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できる「ウェルビーイングなまち」
- 世界中から京都の価値に共感する多彩な人々がつどい、市民、地域、企業などの多様な主体と交ざり合い、そのつながりから新たな価値を創造する「ぬか床のようなまち」
- 日本中、世界中の人々から、住みたい、働きたい、活躍したいと思われ、選ばれる「世界があこがれる唯一無二のまち」



実現に向けて、令和9年度までに取り組む政策、政策を推進するためのしごとの仕方改革、財政・組織体制の今後の方針を示す「新京都戦略」を今年度中に策定

(2) 市政運営に当たっての基本姿勢

○ 市民生活第一の徹底

基礎自治体として、福祉・健康・医療や教育・子育て環境の充実、包摂性の高いまちづくり、京都経済を支える地域企業等の下支え、市民のいのち・暮らしの安心安全など、市民生活を守る政策を基本に据える。

○ 新たな京都を切り拓く！

人口減少社会において、京都が培ってきた文化や精神性などのポテンシャルを最大限に活かし、京都の価値や強みに共感する多彩な人々が国内外からつどい、つながり、交ざり合うことで、新たな文化や産業を創出し、都市課題の解決、更には都市全体の魅力や活力を向上させ、新たな京都を切り拓く！

生まれた都市の活力を、市民生活の豊かさの向上につなげ、より一層の好循環を創出！

○ 新しい公共を推進！

すべての人に「居場所」と「出番」があり、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できるウェルビーイングなまちへ！

官と民、内と外の垣根を低くし、市役所・区役所が「結節点」としての役割を担い、市民、地域、NPO、企業、大学など多様な主体と対話を重ねて、つながりを深め、更には外部有識者も含めて社会総がかりで共に課題の解決に協働して取り組み、京都の未来を創造！

○ 市役所・職員が変わる！

文化芸術、自然環境、コミュニティなど、京都ならではの強みをいかした人口政策、経済政策等を、世界も視野に入れて推進することにより、まちの活性化、豊かな市民生活を実現し、担税力の強化、持続可能な行財政にもつなげていく。

そのために、より効果的な政策を立案できるよう、市役所・職員の意識を変え、しごとの仕方、公共資産・公共空間のあり方を変革する。

(3) 京都の価値・強みを踏まえ、重視する3つの視点

ひらく
開・拓

- 内と外の垣根を低くし、世界に開き、多様な人々がつどい・交ざり合うことで新たな価値を創造
- 京都の未来を切り拓くため、まずは、市役所が変わる！しごとの仕方を変え、クリエイティブな仕事ができる職場へ変革

きわめる
究・極

- 京都の本質的な価値を守り、育み続け、さらに新たな息吹を取り込み、学び、創造と革新を繰り返すことで、強みを磨き上げ、イノベーションを創発
- 京都ならではの価値を創出し、きわめ、世界に唯一を目指す。

つなぐ
継・絆

- 自然、文化、コミュニティなど、京都の人とまちが紡いできた本質的な価値を未来へつなぐ。
- 人と人・地域の絆を大切にし、一人一人が尊重され、むすび、つながり、支え合う社会を構築

(4) 政策の基本方針

➤ 以下の6つの柱の下、政策を推進

- 柱1 京都のまちが紡ぐ文化の力を活かし「新たな魅力・価値を創造し続けるまち」
- 柱2 居場所と出番により、つながり・支え合う「包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち」
- 柱3 京都の伝統・知恵・イノベーションの力により「都市の活力と成長を支える産業が育つまち」
- 柱4 京都ならではの学びと子育て環境を通して「未来を担う子ども・若者を社会全体で共にはぐくむまち」
- 柱5 豊かな自然・歴史的景観と地域の魅力を活かした「自然環境と調和する持続可能なまち」
- 柱6 市民のいのち・暮らしを守る「安心安全で災害に強いレジリエントなまち」

➤ とりわけ、「突き抜ける世界都市 京都」の実現に向けて、先導的・挑戦的な取組を『リーディング・プロジェクト』として、強力に推進



当初予算の主なポイント



(1) 予算編成の考え方

- 令和7年度当初予算は、松井市政として、実質初めての通年予算！
- 令和6年度の「京都の未来を見据え、種まきとなる基盤づくり」から
令和7年度は
「突き抜ける世界都市の実現に向けた本格展開予算」を編成！



限りある財源を京都の価値を高める施策へ重点的に配分

2 当初予算の主なポイント

<具体的には…>

- ① 地域企業等の担い手確保やD X推進等の生産性向上等による下支え、市民生活と観光の調和・両立の更なる推進、さらには救急隊増隊をはじめとする市民の安心安全対策、健診機会の充実などの市民一人一人の健康づくりなど、市民生活を守る施策を強化！
 - ② 第2子以降保育料無償化などの子育て負担の軽減、京都安心すまい応援金の充実などのすまいづくりや、公園の魅力アップなどの居場所づくりの強化に加え、演劇教育の実践や探究学習の充実など、京都ならではの特色ある教育を実践することにより、人口減少課題に対応！
 - ③ 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップの創出・成長支援や海外企業誘致などの企業立地の取組の強化とともに、区役所や学校との協働の下、様々な場所で地縁や志縁組織等の交ざり合いの中から、地域課題の解決を目指す取組など、京都の価値・強みを活かした先導的・挑戦的な取組を展開！
- さらに、限られた財源の中、効果的・効率的な施策を展開していくため、
- ◇ 府市協調・オール京都の取組や、公民連携等の新しい公共を推進
 - ◇ 加えて、「ゼロ予算」(※)による取組も推進
- ※ 追加予算をかけず、既存事業の創意工夫や組織体制の強化等により対応
- ⇒ 主な取組は次ページを参照

<参考資料>：府市協調や新しい公共の取組など

※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

※金額は、全体事業費のうち、府市協調に係るもの

◆松井市政以降、府市トップミーティング等を踏まえ、新たに実施又は充実した取組

①府市協調・オール京都の取組の推進< R ⑦予算額：1億400万円 >

- 【充】○高校生の府市合同探究成果発表会「京都探究エキスポ」の充実。さらに、学びの充実に向けた世界に誇る歴史的社寺等の文化財（ユニークベニュー）での探究学習を実施 【府市連携事業を通じた市立高校における探究学習の充実（700万円）】
- 【新】○素材研究からデザイン、実装まで京都の強みを活かした半導体産業の振興に向け、産官学による推進体制を構築 【京都次世代半導体産業推進事業（1,500万円）】
 - 国内最大級のスタートアップイベント「IVS KYOTO」を開催 【スタートアップ・エコシステム推進事業（300万円）】
- 【充】○大阪・関西万博を機に、「川」をテーマに広域な観光コンテンツを造成するとともに、京料理を始め幅広いジャンルの食を紹介する「京都レストランスペシャル」を開催 【多様なエリアにおける魅力発信事業（1,100万円）】
- 【充】○朝・夜観光コンテンツやイベント情報を特設ウェブサイトを集約し、府市で一体的に発信 【分散化の推進と観光の満足度向上のための朝・夜観光等コンテンツ造成事業（1,500万円）】
- 【新】○京都国際マンガ・アニメフェアなどのコンテンツ関連イベントの相互連携と共同プロモーションを実施 【コンテンツビジネス支援事業（500万円）】
- 【充】○学生と府内の地域や企業との交流・連携を促進するための学生×地域×企業 京都未来人材育成プロジェクト 【学生×地域×企業 京都未来人材育成プロジェクト（500万円）】
 - 留学生向けビジネス日本語教育の一体的実施による充実 【留学生向け日本語教育（400万円）】
 - アート市場の活性化を目指し、アート関連イベントの開催時期を連動 【「京都アート月間（仮称）」の創設】
- 【新】○「大阪・関西万博 京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイ」を民間企業・団体とも連携して実施 【「大阪・関西万博 京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイ」事業（1,000万円）令和6年度2月補正】
- 【新】○子どもだけで仮設のまちをつくり運営する「京都版ミニ・ミュンヘン」を実施 【京都版ミニ・ミュンヘン（500万円）】
- 【充】○妊産婦や育児等に関するSNS相談支援について、相談対象年齢の拡大（0歳児～2歳児⇒3歳児以降も追加）や予期せぬ妊娠に対する緊急相談体制（妊娠SOS）を新たに構築 【SNS等を活用した相談支援の拡充（800万円）】
- 【充】○国のモデル事業として、新生児の先天性代謝異常等検査の対象項目を拡充（対象：20→22疾患） 【先天性代謝異常等検査の拡充（拡大マススクリーニング）（1,500万円）】
- 【新】○「KYOTO地球環境の殿堂」において高校生・大学生等が自然環境と文化の関係についてワークショップを通じて探究し、国際会議で発表 【環境問題への関心を高める探究学習の推進（「KYOTO地球環境の殿堂」未来会議）（100万円）】
- 【新】○新興感染症等に備えるため「京都版CDC」の令和8年度設立を目指し、府との連携・協力を推進 【ゼロ予算で実施】

◆松井市政以降、新たに実施又は充実した取組

②新しい公共の推進

- 【新】○区役所や学校の協働の下、様々な場所で地縁団体や企業・大学・福祉関係団体・NPO等の多様な主体の交ざり合いの中から、地域のつながり・結びつきを創出し、地域課題の解決を目指す取組を開始
【地域資源を活かしたつながり・支え合い創出事業（3,800万円）】
- 【新】○コミュニティの核となり、まちづくりの拠点となる多機能な図書館づくりに着手
【新しい図書館構想に向けた「つながる。LIB×LAB（リブ・ラボ）プロジェクト」（1,500万円）】
- 【新】○組織の垣根を越え、地縁団体や企業・大学・福祉関係団体・NPO等の多様な主体のつながり、結びつき、交ざり合いを促進するため、人と人をつなぐ結節点の機能を市役所・区役所・支所にそれぞれ設置
【組織の見直しにより実施】
- 【新】○民間団体と協働し、性被害や家庭問題等の様々な困難を抱える若年女性等への支援を強化
【民間団体との協働による若年被害女性等支援事業（1,200万円）】
- 【充】○スマホアプリの活用等により、地域住民が普段から認知症の方の見守りに参加していただける仕組みを構築し、地域における見守り体制を強化
【ICTを活用した認知症高齢者等見守り支援事業（700万円）】
- 【新】○京都の自然の素晴らしさを身近に感じ、発見し、愛着を深める「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」を創設
【生きものむすぶ・みんなのミュージアム事業（2,300万円）】
- 【新】○人と人をつなぐ結節点となる人材の育成やまちづくり活動の活性化に向けた交流機会の創出
【市民参加型行政の推進（1,200万円）】
- 公民連携推進プラットフォーム「KYOTO CITY OPEN LABO」の運営
【KYOTO CITY OPEN LABOの運営（1,000万円）】
- 京都市の定住・移住促進に向けた取組に賛同し、応援いただける企業・団体等からなる「京都市定住・移住応援団」との公民連携の推進
【京都市定住・移住応援団（2,600万円）】
- トヨタ自動車株式会社との共同によるドライブレコーダー映像を消防活動に活用する実証実験
【公民連携により推進】

など

2 当初予算の主なポイント

(2) 予算の概要

(単位：億円)

項 目	R⑥予算	R⑦予算案	R⑦－R⑥
予 算 規 模	9,616	9,575	△41
実質的な予算規模	※ 9,574	9,575	+1
うち中小企業融資制度 預託金除く予算規模	8,134	8,415	+ 281

※ 本頁含め、R⑥予算は第一次編成と第二次編成の合計で記載

R⑥予算規模は9,616億円であるが、第一次編成で第二次編成財源として財政調整基金に積み立てた42億円分が、第二次編成の予算額と重複しているため、上記では重複分を除いている。

① R⑦予算規模：9,575億円 … 過去2番目の規模（過去最大はコロナ禍に編成したR③予算の1兆円）

○ 対R⑥予算比：+1億円（+0.1%）

→ 景気動向により増減が大きい中小企業融資制度預託金を除いた場合：+281億円（+3.5%）

<歳入予算について>

○ 市税収入が堅調（過去最高を更新見込み）< R⑥3,178億円 → R⑦予算3,361億円（+183億円）>

◇ 個人市民税：個人給与所得の伸びなど < R⑥1,126億円 → R⑦予算1,282億円（+155億円）>

◇ 固定資産税：土地負担調整措置、新增築の増など < R⑥1,221億円 → R⑦予算1,266億円（+45億円）>

2 当初予算の主なポイント

<歳出予算について>

- 社会福祉関連経費は、引き続き増加傾向
障害者総合支援、介護・後期高齢などが増加。第2子以降の保育料無償化の開始による増
＜R⑥3,209億円→R⑦予算3,292億円(+84億円)>
- 中小企業等の融資制度預託金が減（融資残高の減）
＜R⑥1,440億円→R⑦予算1,160億円(△280億円)>
- 投資経費は大規模工事の終了により減となるものの、施設の老朽化対策等を充実
＜R⑥724億円→R⑦予算699億円(△25億円)>
 - ◇ 大規模工事の終了：新庁舎整備（△75億円）、小栗栖・西陵小中一貫校（△88億円）
 - ◇ 消防指令センター整備のほか、学校長寿命化改修（校数増）や魅力ある公園づくり等を推進

② 収支均衡予算を継続

③ 過去負債（公債償還基金の計画外の取崩し）を計画的に返済、将来世代に配慮した財政運営へ

R⑦予算では計画どおりの10億円を計上、今後の補正予算と合わせて年35億円を目安に返済予定

◇ 過去負債の残高：425億円（R⑦予算計上時点）

<参 考>

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| ○ 市債発行額 | R⑦：389億円（6年度2月補正予算への前倒し分を含め417億円） |
| ○ 一般会計市債残高 | R⑦末見込：1兆2,356億円（R⑥末見込：1兆2,787億円） |
| 臨時財政対策債除く市債残高 | R⑦末見込：7,788億円（R⑥末見込：7,948億円） |

(3) 今後の行財政運営の基本方針

- 歳出抑制に軸足を置いた財政運営ではなく（＝歳出上限を設定せず）、京都のまちの魅力や市民生活の豊かさの更なる向上を図り、担税力の強化、持続可能な行財政の確立にもつなげていく。
このため、市民参加・協働の下、京都の目指すまちの姿を共有し、財政状況の見える化を図りつつ、社会経済情勢等に応じた不断の点検を行うとともに、限りある財源と人員を、京都の価値を高める施策へ重点的に配分する。さらに、将来世代の負担軽減により、将来負担を適切にコントロールしていく。
- 上記の考えの下、令和7年度予算では、足下の経済がデフレからインフレ傾向へと向かう中、歳出上限を設定せず、「突き抜ける世界都市 京都」の実現に向けた施策を充実するとともに、収支均衡予算を継続し、過去負債を計画どおりに返済
- 本市の財政状況は着実に改善しているものの、京都ならではの都市特性(※)が残念ながら税収面では課題。加えて、インフレが進む中であらゆるコストが上がっていることや、人口減少の課題等もあり、引き続き緊張感をもった財政運営に取り組んでいく。

※人口に占める大学生が多い、市域の3/4が森林、木造家屋が多い等

<参考> 新京都戦略に掲げる財政運営目標

ア 特別の財源対策※を講じない安定した財政運営、将来世代に配慮した財政運営

※ 資金手当てのための市債（市の借金）と公債償還基金の計画外の取崩し

イ 過去負債（公債償還基金の計画外の取崩し）の返済

年35億円を目安とし、高齢化がピークを迎えるまでの令和20年度を目途に、できる限り早期に返済



参考1：中長期の財政収支試算



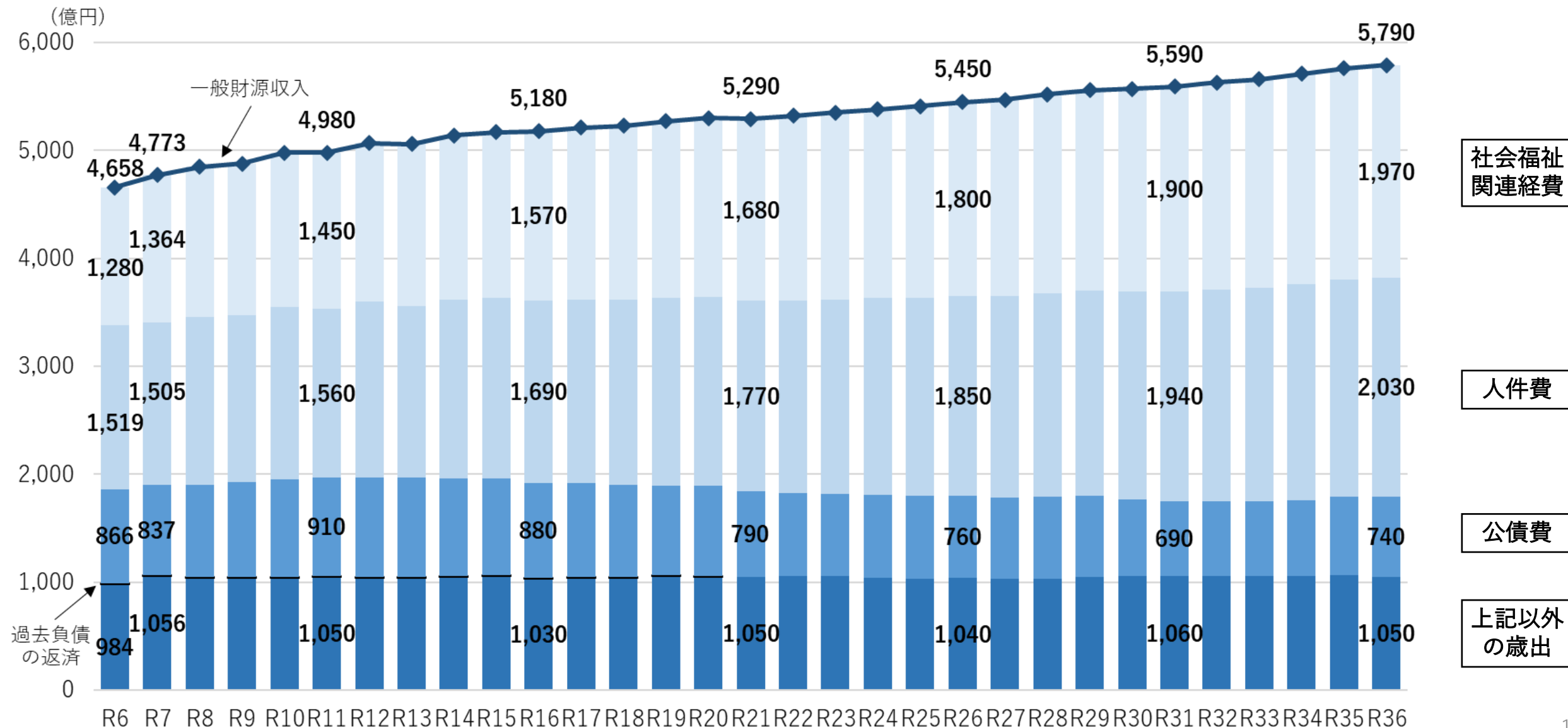
3 参考1：中長期の財政収支試算

今後の財政運営は、歳出上限を設けず、毎年の予算編成において、適切な歳出規模や投資水準を判断していく。
その判断に当たっては、中長期を見据えて将来負担を適切にコントロールしていくことが重要であるため、次の条件で今後30年間の中長期の収支試算を機械的に作成
※ 当該試算結果を財政運営目標として定めるものではなく、各項目の試算結果は予算編成過程の中で精査及び修正していく。

項目		見込み方
一般財源収入	市税	
	個人市民税	納税義務者数×1人当たり納税額 【納税義務者数】20～64歳の将来人口減少推計増減率に合わせて算出 【1人当たり納税額】過去10年平均伸び率1.0%（給与所得控除の最低保障額10万円引上げの影響考慮後）
	法人市民税	過去10年平均値で据置き
	固定資産税	【土地】前年度試算＋令和6年度評価替えによる負担調整措置の増 【家屋】前年度試算×木造・非木造別平均伸び率 平均伸び率は、評価替えがある年度（令和9年度から3年度毎）及び評価替えがない年度の過去9年間（評価替え3回）での実績から試算 ※ 評価替え年度 木造…△3.6% 非木造…＋0.9% 非評価替え年度 木造…＋3.4% 非木造…＋2.6%
	都市計画税	
	宿泊税	令和8年3月からの税率引上げによる増を見込み、以降据置き
地方譲与税・府税交付金その他		前年度試算×地方税収変動率（出典：内閣府「中長期の経済財政に関する試算」）
地方交付税・臨時財政対策債		普通交付税（基準財政需要額－基準財政収入額）＋特別交付税 【基準財政需要額】前年度試算×過去10年平均伸び率（＋0.88%）×人口増減率 ※公債費・事業費補正は個別算出 【基準財政収入額】上記市税収入等の試算と連動 【特別交付税】過去10年平均値で据置き
歳出に要する一般財源	社会福祉関連経費	前年度試算×人口増減率×社会福祉関連経費の過去10年平均伸び率（2.1%）
	人件費	前年度試算×1人当たり納税額平均伸び率（1.0%） ※ 令和14年度までは定年引上げに伴う退職手当の増減も反映
	公債費	元金は30年返済、利子は国の予算に合わせて令和11年度まで1.8%、12年度以降1.9%と仮定 【過去に発行した市債】返済計画どおり 【今後新たに発行する市債】年450億円と仮定
	過去負債の返済	毎年度当初予算で10億円、補正予算で25億円を返済し、令和20年度を目途にできる限り早期に返済
	上記以外の歳出	一般財源収入－社会福祉関連経費－人件費－公債費－過去負債の返済

3 参考1：中長期の財政収支試算

中長期の財政収支試算結果



3 参考1：中長期の財政収支試算

(参考) 令和9年度までの試算結果の内訳

(単位：億円)

項目	R 6 予算	R 7 予算	R 8 推計	R 9 推計
① 一般財源収入	4,658	4,773	4,850	4,880
市税、府税交付金、地方特例交付金等	3,787	3,951	4,080	4,110
地方交付税・臨時財政対策債	755	720	770	770
財政調整基金	116	102	—	—
歳出に要する一般財源	4,658	4,773	4,850	4,880
社会福祉関連経費	1,280	1,364	1,390	1,410
人件費	1,519	1,505	1,560	1,540
公債費	866	837	850	880
過去負債の返済	10	10	10	10
② 小計	3,675	3,716	3,810	3,840
③ 上記以外の歳出 (①－②)	984	1,056	1,040	1,040
消費的経費等(※2)	479	546		
投資的経費	161	180		
公営企業等への繰出金等	343	330		
収支 (①－②－③)	—	—	—	—

※1 億円未満を端数調整しているため、合計が一致しない場合がある。

※2 施設運営費、補助金、福祉、教育、中小企業支援、ごみ処理、文化・スポーツをはじめとする各種事業費を指す。



政策ごとの主な取組



4 政策ごとの主な取組

< 1 > 新たな魅力・価値を創造し続けるまち

R ⑦ 予算：118億円

※本頁以降、事業費は、
十萬単位を四捨五入で記載
※本頁以降、充実事業の事業費は、
全体事業費を記載

1 現 状

- 暮らしに息づく様々な文化を誘引として、クリエイティブ人材(※)が集うまち京都。強みである文化の潜在力を活かした更なる魅力向上を図っていくことが必要
- そのため、誰もが多様な文化に触れる機会の創出や担い手・支え手の育成等はもとより、クリエイティブな人々を受け入れ、多彩な人々との交ざり合いを通じて、新たな価値を創造し、まちの魅力を更に高めていくことが可能
- また、観光についても、多様で奥深い魅力を活かした「観光」を推進すると同時に、観光課題対策はもとより、観光が市民生活の豊かさにつながっていることを実感できるような施策の推進が必要

2 今後の取組方針

<文化> 「文化芸術都市創生条例」に掲げる市民の暮らしに根を下ろした文化芸術の活性化により、常に新たな魅力に満ちあふれた都市を実現するため、以下の取組に注力

- ① 間口を広げた多様な文化を感じられる機会の創出
- ② 新たな価値の創造に向けた多彩な人々のつどい・交ざり合いの促進

<観光> 市民、観光客、観光事業者・従事者の満足度が高く、新たな魅力や価値の創造にもつながる持続可能な観光を実現するため、宿泊税を効果的に活用しつつ、以下の取組に注力

- ① 多様で奥深い魅力を活かした「観光」の推進
- ② 市民生活と観光の調和・両立の更なる推進

※ アーティストやクリエイター、職人、料理人など、創造的なアイデアや表現等を通じて、新たな価値を生み出す人材

<1> 新たな魅力・価値を創造し続けるまち

3 R⑦予算におけるポイント（文化）

- 文化芸術を支え、継承・創造していく次世代の担い手・支え手育成に向け、**間口を広げた多様な文化に触れる機会の創出を加速化**
- 京都の価値に共感する多彩なクリエイティブ人材と地域や学生との交流等を通じた新たな文化や産業の創造に向け、**クリエイティブ人材の受入推進に向けた取組を充実**

主な取組

① 間口を広げた多様な文化を感じられる機会の創出

- 充** ➤ 次世代の担い手・支え手育成も見据え、子どもたちが文化に触れる体験を充実
【子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出（5,400万円）】
- 充** ➤ 多様な文化を実感いただくとともに文化を通じた交流の促進に向け、京都芸術センターに広報マネージャーを設置
【京都芸術センターの運営基盤強化（1億5,100万円）】
- 新** ➤ 文化遺産の保存と活用の促進に向けた文化財修理助成等の充実
【文化財修理サイクルの確立に向けた修理助成制度の再構築（1億5,500万円）】

② 新たな価値の創造に向けた多彩な人々のつどい・交ざり合いの促進

- 充** ➤ 多彩な才能を持つクリエイティブ人材を受け入れ、地域や若者との交流を推進する取組を充実
【京都の若者が世界の多彩な才能と交流する仕組みづくり（4,500万円）】
- 新** ➤ 海外からの相談対応など世界から多様な人材が集う受入環境の充実
【外国籍市民等の実態調査及び海外からの相談対応等受入環境の充実（1,900万円）】

<1> 新たな魅力・価値を創造し続けるまち

4 R⑦予算におけるポイント（観光1）

- 京都の新たな魅力や価値の創造、関係人口の拡大、ひいては都市格の向上などにもつなげていくため、**多様で奥深い魅力を活かした「観光」を推進**

主な取組

<多様で奥深い魅力を活かした「観光」の推進>

① 観光を通じた京都の魅力の継承・発展

- 充** ➤ 多様なエリアの魅力を発掘・発信する「とっておきの京都」や府市連携で周遊観光を推進する「まるっと京都」の充実（府市協調）
【多様なエリアにおける魅力発信事業（6,400万円）】
- 新** ➤ 花背・八丁平地域の豊かな自然や森林文化の価値を創造するとともに、トレッキングルートの補修やトイレの改修等を実施
【森林文化・自然環境価値創造プロジェクト～京の源流域を歩いて楽しむ～（2,400万円）】
- 充** ➤ 歴史的建造物等のユニークベニューとしての活用など京都の強みを活かしたMICE誘致の強化
【京都の強みを活かしたM I C E 誘致強化（8,000万円）】

② 文化の力を活かした価値創造

- 充** ➤ 多彩な才能を持つクリエイティブ人材を受け入れ、地域や若者との交流を推進する取組を充実（再掲）
【京都の若者が世界の多彩な才能と交流する仕組みづくり（4,500万円）】

③ 品格ある景観創造

- 新** ➤ 美しい町並みの維持創造に向け、地域の特性にマッチした景観政策を検討
【地域特性を生かした景観創造のための調査（2,500万円）】

<1> 新たな魅力・価値を創造し続けるまち

4 R⑦予算におけるポイント（観光2）

- 都市の成長や市民の暮らしの豊かさにつなげるため、観光課題への対策の徹底や観光に対する市民理解の促進など、市民生活と観光の調和・両立を更に推進

主な取組

<市民生活と観光の調和・両立の更なる推進>

④ 観光課題対策の着実な実施

- 充 ➢ 周辺周遊を促すデジタルマップの活用や「まるっと京都」の充実等による観光地の混雑緩和及び分散化の推進(再掲)
【観光地等交通対策（7,700万円）】 【多様なエリアにおける魅力発信事業（6,400万円）】
- 充 ➢ 公共交通乗り場等への誘導強化による京都駅の混雑緩和、コインロッカー情報の一元化等による手ぶら観光の充実を通じた公共交通の混雑緩和の推進
【交通混雑緩和に向けた情報発信（1億2,000万円）】 【手ぶら観光の推進（7,200万円）】
- 充 ➢ 地域団体等の主体的な散乱ごみ対策の実施及び将来的な自走化を図るため、ごみ減量の仕組みづくりなどを支援し、地域による取組を推進
【観光地等における散乱ごみ対策（4,700万円）】

⑤ 市民・観光客双方の利便性向上や安心安全に繋がる都市基盤整備

- 充 ➢ 市バス等の市民優先価格への挑戦をはじめ、市バスのリアルタイム運行情報（車内混雑度や走行位置等）の発信や市バス・地下鉄のキャッシュレス化の更なる推進、公共トイレのアップグレード等、観光の意義や効果を実感できる環境づくりを推進
【市バス混雑緩和に向けた取組（6億1,000万円※）】
※公営企業の対象予算額
- 新 ➢ 災害時に避難所となる学校体育館の空調整備計画を策定し、市民や観光客の安心安全の確保を推進
【学校体育館空調整備計画の策定（3,500万円）】

<2> 包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち

R⑦予算：293億円

1 現状

- つながりの希薄化や担い手不足等により、既存コミュニティの維持が難しいとの声もあることを踏まえ、地縁団体や企業・大学・福祉関係団体・NPO等の多様な主体の協力の下、市民がつどい、つながり、交ざり合い、自分事として関わる地域コミュニティの構築が不可欠
- あわせて、福祉・健康・医療衛生を一体的に推進するとともに、ケアラー支援など、多様化・複雑化した課題を抱える方への支援を強化することにより、包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるウェルビーイングなまちの実現を目指す。

2 今後の取組方針

<地域コミュニティ> 行政・市民・地域・民間の垣根を低くし、学校や図書館等の身近な公共空間において、地縁団体や企業・大学・福祉関係団体・NPO等と協力し、市民と多様な主体が交ざり合う機会を創出することにより、居場所と出番の確保、ひいては、持続的な地域活性化を目指し、以下の取組に注力

- ① 市民と多様な主体との交ざり合いの促進
- ② 人と人をつなぐ結節点としての市役所・区役所の機能強化
- ③ 地域で見守り支え合う仕組みの構築

<福祉・健康> お互いに認め合い、支え合い、安心して暮らせる、やさしいまちづくりを進めるとともに、誰もが健康でいきいきと活躍できる環境づくりを進める中で、居場所と出番を確保するため、以下の取組に注力

- ① 安心・安全に地域で生活するための支援と環境整備
- ② 市民の健康を支える環境づくり

< 2 > 包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち

3 R⑦予算におけるポイント（地域コミュニティ）

- 地域レベルでの交ざり合いを促進し、居場所と出番の創出に向けたモデル事業を開始
あわせて、年代や性別にかかわらず多くの人が交ざり合う空間の創出に向け、図書館の多機能化に着手
- 地域で見守り支える仕組みの構築に向け、多様化・複雑化する社会課題への取組を強化

主な取組

① 市民と多様な主体との交ざり合いの促進

- 新**➤ 区役所や学校との協働の下、様々な場所で地縁団体や企業・大学・福祉関係団体・NPO等の多様な主体の交ざり合いの中から、地域のつながり・結びつきを創出し、地域課題の解決を目指す取組を開始
【地域資源を活かしたつながり・支え合い創出事業（3,800万円）】

- 新**➤ コミュニティの核となり、まちづくりの拠点となる多機能な図書館づくりに着手
【新しい図書館構想に向けた「つながる。LIB×LAB（リブ・ラボ）プロジェクト」（1,500万円）】

② 人と人をつなぐ結節点としての市役所・区役所の機能強化

- 新**➤ 組織の垣根を越え、地縁団体や企業・大学・福祉関係団体・NPO等のつながり、結びつき、交ざり合いを促進するため、人と人をつなぐ結節点の機能を市役所・区役所・支所にそれぞれ設置
【組織の見直しにより実施】

③ 地域で見守り支え合う仕組みの構築

- 新**➤ 民間団体と協働し、性被害や家庭問題等の様々な困難を抱える若年女性等への支援を強化
【民間団体との協働による若年被害女性等支援事業（1,200万円）】
- 新**➤ 「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」を踏まえ、ケアラー支援に向けた機運醸成・普及啓発を実施するとともに、個別支援が必要なヤングケアラーの把握のためのアンケート調査を実施
【ヤングケアラーへの支援（1,900万円）】 【ケアラー支援に係る普及啓発・機運醸成の取組（600万円）】

< 2 > 包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち

4 R⑦予算におけるポイント（福祉・健康）

- 高齢者や障害のある方等が住み慣れた地域で過ごせるよう、重度障害者等が利用する施設への支援や認知症施策を充実
- 平均寿命と健康寿命の差を縮めるため、検診等の受診機会の提供、生活習慣病予防の推進等により、市民一人一人の健康づくりを推進

主な取組

① 安心・安全に地域で生活するための支援と環境整備

- 新**➤ 新たに医療的ケアが必要な方を受け入れる施設に対し、受入れに必要な経費等を支援するほか、総合支援学校卒業生等の重度障害者を受け入れる目的で行うデイサービス、グループホームの施設改修費を補助

【重度障害者等利用事業所支援事業（1億8,200万円）】 【生活介護及び共同生活援助事業所用施設改造費助成（3,200万円）】

- 充**➤ スマホアプリの活用等により、地域住民が普段から認知症の方の見守りに参加していただける仕組みを構築し、地域における見守り体制を強化

【ICTを活用した認知症高齢者等見守り支援事業（700万円）】

② 市民の健康を支える環境づくり

- 充**➤ 胃がん検診新規対象者（50歳）向けに個別勧奨を行い、胃がん検診の自己負担金額を初回無料とするなど、受診勧奨の取組を強化するとともに、がんセット検診にオンライン予約を導入し、受診しやすい環境づくりを推進

【胃がん検診新規対象者向け無料クーポン事業、がんセット検診オンライン申込の導入（5億8,000万円）】

- 充**➤ 妊婦とそのパートナーを対象とした身近な地域の医療機関での歯科健診の実施や、歯周疾患予防健診の充実を通じた健康支援の推進

【妊婦・パートナー歯科健診、歯周疾患予防健診の充実（3,600万円）】

< 3 > 都市の活力と成長を支える産業が育つまち

R⑦予算：1, 259億円

※中小企業融資制度預託金を除くと99億円

1 現 状

- 京都経済の活性化に向けては、まちの活力の担い手である地域企業の経営基盤の強化、持続的な成長発展、次代の京都経済をけん引するグローバル企業・中堅企業の創出に向けた取組が必要
- 同時に、成長の原動力であるスタートアップが迅速かつ大きく育つ環境の整備が重要。大学発スタートアップ設立数は全国トップクラスにあるが、ポテンシャルを考慮すれば、更なる加速化が可能
- オフィス空間や産業用地が限定される中、経済の活性化や雇用創出のため、地域経済の発展に大きく寄与する国内外の企業の立地に向けた、企業立地支援策の強化や海外企業誘致など更なる企業立地の促進が必要

2 今後の取組方針

経済の好循環を生み出し、世界に唯一のビジネス都市・京都の実現に向け、以下の取組に注力

- ① 地域企業の持続的な成長発展
- ② 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップの創出・成長
- ③ 「オフィス空間・産業用地の創出」と「企業立地支援」を両輪に企業立地を促進

< 3 > 都市の活力と成長を支える産業のまち

3 R⑦予算におけるポイント

- 次代を担うグローバル企業・中堅企業の創出に向けた支援を強化するとともに、素材研究からデザイン、実装まで京都の強みを活かした半導体産業振興に向けた取組に着手
- 担い手確保やデジタル化・D X推進等により、地域企業を着実に下支えするとともに、業種の異なる企業間での交ざり合いの促進等を通じて地域企業の持続的な成長を支援

主な取組

① 地域企業の持続的な成長発展

- 新** ➤ 次代を担うグローバル企業・中堅企業の創出に向け、D Xや海外展開により、販路拡大等に取り組む中小企業への支援を開始
【グローバル展開支援中堅企業創出プロジェクト（3,900万円）】
- 新** ➤ 素材研究からデザイン、実装まで京都の強みを活かした半導体産業振興に向け、産官学による構想推進体制を構築（府市協調）
【京都次世代半導体産業推進事業（1,500万円）】
- 充** ➤ 商品開発等に知見のある事業者との連携等による伝統産業の新商品開発及び販路開拓・拡大
【伝統産業未来構築事業（4,500万円）】
- 新** ➤ 多様な担い手の活躍に向けた仕組みづくりやD X支援等を通じた地域企業の成長支援
【多様な担い手活躍プラットフォーム（2,500万円）】 【商店街キャッシュレス化・D X促進モデル事業（2,900万円）】

< 3 > 都市の活力と成長を支える産業のまち

3 R⑦予算におけるポイント

- スタートアップ創出・成長の加速化に向け、モデルケースの創出や経営人材の育成・集結に向けた取組など、世界と社会にインパクトを与えるスタートアップ創出への取組を強化
- オフィス空間・産業用地の創出や、企業立地・定着支援に向けた取組を充実するとともに、新たに海外企業誘致を実施

主な取組

② 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップの創出・成長

- 新** ➤ グローバルに活躍するスタートアップのモデル創出に向け、現地、民間事業者、本市職員等がワンチームとなって集中的な支援を展開
【京都スタートアップ・海外展開支援プロジェクト（6,300万円）】
- 新** ➤ 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップの創出に向け、ライフサイエンスをはじめとする京都の大学の研究を中心としたディープテック(※)分野への支援を実施
【京都ディープテック事業化支援プロジェクト（3,500万円）】
- 新** ➤ スタートアップへの伴走支援やコミュニティづくりを行う支援人材の育成に向け、コワーキングスペース・シェアオフィス等への補助を開始
【イノベーション拠点価値向上事業（1,300万円）】

③ 「オフィス空間・産業用地の創出」と「企業立地支援」を両輪に企業立地を促進

- 充** ➤ 大規模テナントオフィスやレンタルラボ施設の立地助成上限額等を拡充(最大1 → 3億円) 【企業立地促進助成（債務負担）】
- 充** ➤ 企業へのアプローチ手法の強化等により、企業立地促進の取組を充実
【戦略的企業誘致の推進（5,000万円）】
- 新** ➤ 世界に唯一のビジネス都市・京都を目指し、新たに海外企業誘致を実施
【海外企業誘致の推進（5,500万円）】

< 4 > 未来を担う子ども・若者を社会全体で共にはぐくむまち

R⑦予算：4 3 1 億円

1 現 状

- ① 保育所等11年連続、学童クラブ事業13年連続、待機児童ゼロを達成。保育士の処遇改善の充実、国基準以上に手厚い保育士配置、つどいの広場等の子育て支援拠点の充実など、京都ならではの子育てしやすい環境を整備
- ② 教育環境では、小中一貫学習支援プログラムの活用、基礎学力の定着への取組等により、学力調査では、小学校は4年連続で政令市1位。全市立小学校・高校での茶道体験、全市立中学校での華道体験など、子どもたちが多くの文化芸術に触れる機会を創出
- ③ 全国的な課題でもある出生数の減少や、就職や結婚を機に、若者・子育て世帯が市外へ転出する傾向にあり、歯止めが急務

2 今後の取組方針

- 子育て・教育環境の強みを更に伸ばしつつ、若者・子育て世帯の定住・移住の促進につながる施策展開が重要
- 子育て環境について、子ども・若者の視点に立ち、「妊娠・出産」「子育て」などの各段階で、ライフステージに応じた、誰一人取り残さない切れ目のない支援に取り組んでいく。とりわけ、保護者からニーズの高い子育て負担の軽減や、子ども・若者の居場所づくり、魅力あるすまいづくりを推進していく。
- 子どもが興味や関心を高め夢中になれる教育環境を推進。高大連携、探究学習、STEAM教育(※)や演劇教育の実践、起業家精神を醸成するとともに、感受性豊かな子どもの頃から文化や芸術、モノづくり等に直接触れる機会を創出することで、突き抜けた人材を育成していく。

※ 科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術・リベラルアーツ(Art)、数学(Mathematics)」の5つの分野を統合的に学ぶ教育

3 R⑦予算におけるポイント①（子育て環境）

- 第2子以降の保育料無償化など、保護者からニーズの高い子育て負担の軽減や、「京都安心すまい応援金」、公園の魅力アップなど子育て世帯等に魅力あるすまいづくり、居場所づくりを強化

主な取組

- 新** ➤ 第2子以降の保育料無償化を4月から開始
【第2子以降の保育料無償化（本市負担額13億5,000万円※）】
（例）世帯年収800万円の共働き世帯が子供2人を預ける場合、年間約20万円以上の負担軽減 ※歳入減9億3,000万円を含む
- 充** ➤ 国のモデル事業として、新生児の先天性代謝異常等検査の対象項目を拡充(対象：20→22疾患)（府市協調）
【先天性代謝異常等検査の拡充（拡大マススクリーニング）（2,700万円）】
- 充** ➤ 妊産婦や育児等に関するSNS相談支援について、相談対象年齢の拡大(0歳児～2歳児⇒3歳児以降も追加)や
予期せぬ妊娠に対する緊急相談体制（妊娠SOS）を新たに構築（府市協調）
【SNS等を活用した相談支援の拡充（1,300万円）】
- 充** ➤ 子育て世帯を対象に、既存住宅を購入しリフォームする場合の奨励金「京都安心すまい応援金」の充実
申込が好調のため、件数を充実（R⑥⑦の2年間560件→800件、R⑥3.5億円→R⑦6.3億円）
【既存住宅の取得支援による若年・子育て世帯の定住・移住促進（6億3,000万円）】
- 新** ➤ 京都安心すまいバンク（仮称）を創設。空き家情報を公開しマッチングを促進
【空き家バンクの活用による子育て世帯の定住・移住促進（300万円）】
- 充** ➤ こどもまんなか公園魅力アッププロジェクトの推進
【こどもまんなか公園魅力アッププロジェクト(14億8,800万円)】
特に、meetus山科－醍醐として新たに山科・醍醐地域の公園魅力アップに取り組むとともに、引き続き洛西SAIKOプロジェクトを推進

3 R⑦予算におけるポイント②（教育環境）

- 探究学習の更なる充実や、子どもたちが文化に触れる機会、英語教育やS T E A M教育の充実に向けた検討など、京都ならではの特色ある教育を実践。あわせて、子どもたちの学びの環境を充実

主な取組

- 探究型学習の強化
- 充 ◇ 高校生の府市合同探究成果発表会「京都探究エキスポ」の充実。さらに、学びの充実に向けた世界に誇る歴史的社寺等の文化財(ユニークベニュー)での探究学習を実施(府市協調)
【府市連携事業を通じた市立高校における探究学習の充実(1,000万円)】
- 新 ◇ 環境に関する探究教材の開発。「KYOTO地球環境の殿堂」において高校生・大学生等が自然環境と文化の関係についてワークショップを通じて探究し、国際会議で発表（府市協調）【環境問題への関心を高める探究学習の推進（300万円）】
- 新 ➤ 演劇的手法を活用したコミュニケーション教育の推進（モデル校での試行実施等）
【演劇的手法を活用したコミュニケーション教育の推進（100万円）】
- 新 ➤ 学校の英語教育の充実に向けた検討や外国語指導助手(A L T)を増員 【英語教育の充実に向けた調査研究事業（3,000万円）】
- 新 ➤ 京都ならではのS T E A M教育充実に向けた調査研究 【京都ならではのS T E A M教育充実に向けた調査研究（1,200万円）】
- 新 ➤ 学びの充実と成長に向けた高大連携推進のための調査 【学びの充実と成長に向けた高大連携推進のための調査（300万円）】
- 新 ➤ 学校体育館の空調整備計画を策定し、子どもたちの安心安全な学習環境を充実（再掲）
【学校体育館空調整備計画の策定（3,500万円）】

< 5 > 自然環境と調和する持続可能なまち

R⑦予算：123億円

1 現 状

- 京都市内の約75%を占める森林、河川が織りなす豊かな自然は京都の強み。市民の暮らしや生活文化は、「山紫水明」と称される京都の恵み豊かな自然環境に支えられており、生物多様性はかけがえのない財産
- 京都議定書採択の地であり、これまでから環境先進都市として、CO₂排出量ゼロに向けて、循環型社会の構築、生物多様性の保全に加え、防災、水質保全など森林・農地の持つ多面的機能を最大限活かす取組を推進
- 一方で、世界、そして京都でも、人と自然との関わりや、生物の多様性が失われつつあり、京都の生活文化を継承していくことが必要

2 今後の取組方針

- 京都の文化や暮らし・営みを彩ってきた生物多様性の恩恵を共に未来へ引き継ぐため、市民が暮らしの中で、自然を身近に実感し、行動することが重要。そのため、京都の自然の素晴らしさを身近に感じ、愛着を深める取組を推進するなど、市民・事業者・観光客などの多様な人々が自然に触れる機会を創出していく。
- 「豊かな脱炭素社会」を実現し、生態系や水、大地・森林など、みんなの財産である自然環境の保全と同時に経済価値を創出するため、サーキュラーエコノミーを体現したビジネスモデルの創出やグリーン農業の支援など、循環型の経済活動への移行を促進するとともに、森林・農地の保全・活用・魅力発信、豊かな自然・歴史的景観の保全に取り組んでいく。

3 R⑦予算におけるポイント

- 生物多様性の恩恵を未来へ継承するため、多様な方々が、京都の自然の素晴らしさを身近に感じ、発見し、愛着を深める仕掛けづくりや、持続可能な形で資源を効率的・循環的に有効利用し、付加価値を生み出すサーキュラーエコノミーへの移行に向けた基盤づくりを実施
- 多面的機能を有する森林を保全・活用するため、天然林化をはじめ持続可能な森林経営管理を推進するとともに、豊かな森林文化の価値創造に向けた取組に着手。また、地域の特性に応じた景観政策の検討に着手

主な取組

① 脱炭素化・資源循環の推進・生物多様性の保全と回復の一体的実施

- 新**➤ 京都の自然の素晴らしさを身近に感じ、発見し、愛着を深める「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」を創設
【生きものむすぶ・みんなのミュージアム事業（2,300万円）】
- 新**➤ サークュラーエコノミー（循環経済）を体現するビジネスモデルの創出に向けた基盤づくりを実施
【サーキュラーエコノミーの基盤づくり事業（700万円）】
- 国の定める「脱炭素先行地域」として、文化遺産等の脱炭素化を通じた京都ならではの脱炭素転換モデルを構築
【京都市脱炭素先行地域創出事業（6億6,300万円）】

② 森林保全・活用・魅力発信、歴史的景観の保全

- 新**➤ 水源涵養、災害防止等に寄与する天然林化に向けたサポート体制の構築
【育成複層林誘導（天然林化）事業（1,500万円）】
- 新**➤ 花背・八丁平地域の豊かな自然や森林文化の価値を創造するとともに、トレッキングルートの補修やトイレの改修等を実施（再掲）
【森林文化・自然環境価値創造プロジェクト～京の源流域を歩いて楽しむ～（2,400万円）】
- 新**➤ 美しい町並みの維持創造に向け、地域の特性にマッチした景観政策を検討（再掲）
【地域特性を生かした景観創造のための調査（2,500万円）】

< 6 > 安心安全で災害に強いレジリエントなまち R⑦予算：375億円

1 現 状

(防災減災)

- 令和6年1月の能登半島地震で明らかとなった建物の倒壊や道路の寸断等の課題に対応するため、R⑥予算では、建物の耐震化や道路防災、避難所環境など、市民の命と暮らしを守る防災・減災対策の予算を強化
- 台風等の風水害被害の軽減に向けては、雨水幹線整備を強力に推進
5年確率降雨に対応する雨水整備率は全国トップ水準（R⑤京都市92%、R④全国平均62%）
- 消防団や自主防災組織等との連携による防災・減災対策は京都の強みであるものの、それら地域防災の中核を担う人材の確保や高齢化など、顕在化する課題への対応が必要

(消防救急)

- あらゆる消防需要に適切に対応し続けるため、京都府南部指令センター整備をはじめとする施策において、市民のいのちと暮らしを守る消防体制の充実強化や、国・府、関係自治体等との連携・協力を推進
- 救急車の現場到着時間は、全国平均より早い状況を堅持し、政令市トップ水準
一方、高齢化等の進展により救急出動件数は年々増加。増加する救急需要に対応できる救急搬送体制の確保が必要

2 今後の取組方針

(防災減災)

市民の命や暮らしを守るため、災害に強いまちづくり・人づくりを推進、さらに災害時には、市民や帰宅困難者、観光客の不安や混乱を最小限に留めることが重要。そのため、

- 地震災害に備え、円滑な避難・救援活動やライフラインの確保に向けた、耐震化や密集市街地対策を推進
- 風水害は、ある程度は予測可能であるため、発災前の事前対応を行政と地域が一体となって推進
- 市民や地域の自主防災組織・消防団等との連携を強化し、防災活動や防災意識の向上を図るとともに、地域の避難体制を点検しつつ、避難所等の環境を充実

(消防救急)

- 火災や水災をはじめ、発生が危惧される花折断層地震や南海トラフ地震等の大規模災害など、あらゆる災害活動において迅速・的確な対応ができる消防体制を確保
- 1分1秒を争う救急現場では、救急隊の現場到着時間などの短縮が重要
今後、更なる救急需要の増大が見込まれる中においても、適切な救急搬送体制を確保するため、救急隊増隊や救急車の適正利用をはじめとする救急需要対策を推進

3 R⑦予算におけるポイント（防災減災）

- 木造住宅や京町家などの耐震化を進めるとともに、道路整備、橋りょうや水道管の耐震化、密集市街地対策等を実施
- 地域防災力の向上につなげるため、市民の防災意識の高揚や地域の防災活動の担い手確保に向けた事業を推進するとともに、災害の危険度をより分かりやすく伝え、適切な避難行動を支援

主な取組

①公共インフラの整備や建物等の耐震化・防火対策等の強化

- 道路整備、橋りょうの耐震補強、老朽化修繕や、上下水道管路・施設の耐震改修等のインフラ整備
【道路整備、橋りょう耐震補強・老朽化修繕など（133億6,100万円）】 【水道・下水道管路や施設の改築更新・地震対策等（390億円※）】
※公営企業の対象予算額
- 京町家、木造住宅の耐震・防火改修（感震ブレーカー等）への補助金「まちの匠・ぷらす」や、分譲マンション耐震化補助金など、民間住宅の耐震化を促進
【「まちの匠・ぷらす」京町家・木造住宅 耐震・防火改修支援事業(3億9,200万円)】 【分譲マンション耐震化促進事業(300万円)】

- 新➤ 密集市街地の京町家大規模修繕促進に向けた計画策定支援
【密集市街地における京町家の大規模修繕を促進させるための計画策定支援（600万円）】
- 新➤ 災害時に避難所となる学校体育館の空調整備計画を策定し、市民や観光客の安心安全の確保を推進（再掲）
【学校体育館空調整備計画の策定（3,500万円）】

② 市民・地域と連携した地域防災力の向上

- 新➤ 水害・土砂災害の想定区域をより分かりやすくしたWEB版ハザードマップ等の構築
【中小河川の洪水及び内水の氾濫に関するハザードマップの作成（1億5,200万円）】

4 R⑦予算におけるポイント（消防救急）

- 災害の激甚化・頻発化、救急需要の増大をはじめ、消防を取り巻く環境の変化に適切に対応するため、国・府、地域、企業等の多様な主体との連携の下、消防力の充実強化を図るなど、迅速・的確な消防救急体制を確保

主な取組

① あらゆる消防需要に適切に対応する消防体制の確保

- 京都府南部消防指令センターの共同整備（運用開始：令和9年度） 【京都府南部消防指令センター整備（51億9,000万円）】
- トヨタ自動車株式会社との共同によるドライブレコーダー映像を消防活動に活用する実証実験 【公民連携により推進】
- 社会環境や火災態様の変化に適応した効果的な火災予防対策の推進 【予防消防推進（3,900万円）】

② 増加する救急需要に対応する救急搬送体制の確保

- 救急隊1隊の増隊と救急隊の適正配置に向けた西大路消防出張所建替整備に着手 【増加する救急需要への対応（7,700万円）】
- 救急の電話相談窓口（＃7119）の受付体制強化により、救急車の適正利用を促進 【救急安心センター事業（3,300万円）】



参考2：リーディング・プロジェクトごとの予算額



5 参考2：リーディング・プロジェクトごとの予算額

※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

(単位：万円)

1 ひらく（開・拓）		【4億300万円】
① 世界中からクリエイティブ人材がつどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト		【5,700万円】
主な取組	京都ならではの関係人口の拡大及びU・I・Jターンの促進、外国籍市民等の実態調査及び海外からの相談対応等受入環境の充実、京都の若者が世界の多彩な才能と交流する仕組みづくり	
② 公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト		【6,100万円】
主な取組	地域資源を活かしたつながり・支え合い創出事業、銭湯応援プロジェクト、新しい図書館構想に向けた「つながる。LIB×LAB（リブ・ラボ）プロジェクト」	
③ 市民生活と「観光」の両立プロジェクト		【2億8,500万円】
主な取組	観光地等における散乱ごみ対策、宿泊税引上げの検討、観光客による京都観光モラル宣言促進事業、多様なエリアにおける魅力発信事業、分散化の推進と観光の満足度向上のための朝・夜観光等コンテンツ造成事業、修学旅行生誘致に向けた取組、修学旅行体験学習支援事業、京都の強みを活かしたMICE誘致強化、森林文化・自然環境価値創造プロジェクト～京の源流域を歩いて楽しむ～、観光地等交通対策、交通混雑緩和に向けた情報発信等の強化、市バス等の市民優先価格への挑戦	
2 きわめる（究・極）		【5億5,900万円】
④ 「世界に唯一」を目指し、知や技術を創発する企業立地促進プロジェクト		【2億700万円】
主な取組	外国籍市民等の実態調査及び海外からの相談対応等受入環境の充実（再掲）、イノベーション拠点価値向上事業、戦略的企業誘致の推進、企業立地促進助成、海外企業誘致の推進、京都次世代半導体産業推進事業、コンテンツビジネス支援事業、グローバル展開支援中堅企業創出プロジェクト	
⑤ 世界にインパクトを与えるスタートアップ創出・成長プロジェクト		【1億3,400万円】
主な取組	京都スタートアップ・海外展開支援プロジェクト、京都ディープテック事業化支援プロジェクト、スタートアップ経営管理人材バンク、スタートアップ・エコシステム推進事業	

5 参考2：リーディング・プロジェクトごとの予算額

(単位：万円)

2 きわめる（究・極）		【5億5,900万円】
⑥ 「千年の都から次の千年へ」文化継承・価値創造プロジェクト		【8,000万円】
主な取組	子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出、京都コンサートホール魅力向上事業、伝統産業未来構築事業	
⑦ まち中に「学芸」があふれるプロジェクト		【1億3,800万円】
主な取組	学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業、学生と地域企業をつなぐ就職体験プログラム、学生×地域×企業 京都未来人材育成プロジェクト、学びの充実と成長に向けた高大連携推進のための調査、子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出（再掲）、京都コンサートホール魅力向上事業（再掲）、地域資源を活かしたつながり・支え合い創出事業（再掲）、演劇的手法を活用したコミュニケーション教育の推進、英語教育の充実に向けた調査研究事業、府市連携事業を通じた市立高校における探究学習の充実、市立高校教員「グローバルカレッジ」、京都ならではのSTEAM教育機能の強化に向けた調査研究	
3 つなぐ（継・絆）		【12億7,600万円】
⑧ 市役所・区役所の「つなぐ」機能強化プロジェクト		【2億7,900万円】
主な取組	市民参加型行政の推進、学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業（再掲）、スマート区役所の推進に資する取組、地域資源を活かしたつながり・支え合い創出事業（再掲）	
⑨ 地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト		【9億4,100万円】
主な取組	こどもまんなか公園魅力アッププロジェクト、第2子以降の保育料無償化、京都版ミニ・ミュンヘン、既存住宅の取得支援による若年・子育て世帯の定住・移住促進、空き家バンクの活用による子育て世帯の定住・移住促進	
⑩ 京都固有の町並みを次世代に「つなぐ」プロジェクト		【2,400万円】
主な取組	京町家状況調査及び条例の効果検証、歴史的町並みに寄与する建築物の構造設計手法の確立、鴨川魅力向上プロジェクト	
⑪ 「山紫水明の都」ならではの生物多様性・未来継承プロジェクト		【3,200万円】
主な取組	生きものむすぶ・みんなのミュージアム事業、食品ロス削減に向けたフードテック活用普及促進事業、サーキュラーエコノミーの基盤づくり事業	



参考3：項目別の予算額



6 参考3：項目別の予算額

①歳入予算の内訳

(単位：億円)

項 目	R⑥予算 (A)	R⑦予算案 (B)	増減額 (B - A)
市 税	3,178	3,361	+ 183
府 税 交 付 金	487	534	+ 47
地 方 交 付 税 等	755	720	△35
国 ・ 府 支 出 金	2,308	2,333	+ 25
使用料及び手数料	222	233	+ 11
市 債	390	389	△1
そ の 他 収 入	2,276 (2,234)	2,005	△271 (△229)
合 計	9,616 (9,574)	9,575	△41 (+ 1)

※1 R⑥予算は第一次編成と第二次編成の合計で記載

※2 カッコ書きは、第一次編成で財源として財政調整基金に積み立てた42億円を第二次編成にて繰入れた分を除いた額

6 参考3：項目別の予算額

②歳出予算の内訳（行政目的別）

（単位：億円）

項 目	R⑥予算（A）	R⑦予算案（B）	増減額（B－A）
社 会 福 祉 費	3,512	3,595	+ 83
保 健 衛 生 費	554	546	△8
産 業 経 済 費	1,554	1,291	△263
都 市 建 設 費	735	863	+ 128
教 育 文 化 費	1,325	1,291	△34
消 防 費	223	281	+ 58
総 務 費 そ の 他	811 (769)	789	△22 (+20)
公 債 費	902	919	+ 17
合 計	9,616 (9,574)	9,575	△41 (+ 1)

※1 R⑥予算は第一次編成と第二次編成の合計で記載

※2 カッコ書きは、第一次編成で第二次編成財源として財政調整基金に積み立てた42億円を除いた額

6 参考3：項目別の予算額

③歳出予算の内訳（性質別）

（単位：億円）

項 目	R⑥予算（A）	R⑦予算案（B）	増減額（B－A）
給 与 費	1,660	1,656	△4
扶 助 費	2,522	2,597	+ 75
物 件 費 そ の 他	2,780	2,584	△196
投 資 的 経 費	724	699	△25
公 債 費	896	910	+ 14
積 立 金	234 (192)	288	+ 54 (+96)
繰 出 金	800	841	+ 41
合 計	9,616 (9,574)	9,575	△41 (+ 1)

※1 R⑥予算は第一次編成と第二次編成の合計で記載

※2 カッコ書きは、第一次編成で第二次編成財源として財政調整基金に積み立てた42億円を除いた額



令和 6 年度 2 月補正予算（案）



(1) 補正予算の主なポイント

国の経済対策（国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策）と歩調を合わせ、物価高騰等が続く中において、生活者の支援と事業者の下支えを行うとともに、市民の命と暮らしを守る安心・安全対策など、きめ細かな対策を実施！令和7年度当初予算と一体となった予算を編成

① 市民生活・事業者の下支え：23億円

- 引き続き物価高騰等が続く中、生活者を支援し、事業者を下支えするため、国の交付金を活用し、制度上価格転嫁できない社会福祉施設や子育て施設等への運営支援、また、市民生活を支える公共交通の運営等を支援

（参考）先行して令和6年度11月補正予算では、京都市暮らし応援給付金（住民税非課税世帯に3万円/世帯、子ども1人につき2万円加算）を計上し、速やかに給付（84億1,900万円）

- さらに、京都経済を支える中小企業等の更なる成長に繋げていくため、設備投資等による生産性の向上、経営基盤の強化につながる取組等を後押し

② 市民の安心・安全につながる防災減災・老朽化対策等の推進：106億円

- 市民の命と暮らしを守るため、災害時の避難所運営資機材の拡充や、道路、河川等の防災・減災対策、学校等の長寿命化対策、防犯活動への支援等を、令和7年度当初予算と一体的に推進

③ その他：394億円（うち政策的に推進する事業：38億円）

- ア 「大阪・関西万博 京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイ」を府市協調で民間企業・団体と連携して実施(1,000万円)
- イ 京都安心すまい応援金、木造住宅の耐震・防火対策の充実（2億3,000万円）
- ウ 令和7年度に改定を行う国民健康保険料の引上げ幅の軽減措置に向けた支援（35億3,900万円）
- エ 区役所・支所における行政キオスク端末（住民票等の証明書発行端末）の案内業務等の充実（900万円）
- ※ 上記以外で補正予算を計上するもの
市庁舎整備基金の廃止に伴う清算（114億円）、
実績に合わせた予算の過不足調整（137億円）
（ふるさと納税寄付金の積立増、土地売却益の基金積立増、社会福祉関連の増、人件費の減など）、
財政調整基金への積立（102億円）、戸籍への氏名の振り仮名記載業務（3億円）

（2）補正予算の規模

- 経 費：523億円（一般会計：429億円、特別会計：94億円）

< 1 > 市民生活・事業者の下支え

(3) 主な事業

市民生活・事業者の下支え

①物価高騰対策支援

- 福祉施設・子育て施設等（高齢者及び障害者施設・事業所、幼稚園等）に対する運営費支援 【予算額：11億円】
- 市民生活を支える公共交通事業者（公民のバス・鉄道事業者）の運行維持に対する支援 【予算額：3億200万円】

②担い手確保・定着支援

- バス運転士の社宅確保や労働環境改善など、担い手の確保・定着に対する支援（補助率1/2） 【予算額：5,700万円】
- 中小企業等の人材育成や、多様な担い手が働きやすい就労環境整備等への支援と専門家によるサポートを併せて実施（補助率4/5） 【予算額：1億500万円】

③生産性向上支援

- デジタル化・DX推進に取り組む中小企業等に対して、専門家派遣や導入経費等を支援（取組内容に応じて補助率1/2～4/5） 【予算額：2億4,000万円】
- 持続的経営に向けた更なる後押し 【予算額：5億1,800万円】
 - ◇商店街：街路灯等施設の省エネ化等の支援(補助率4/5)
 - ◇伝統産業：新商品開発や販売機会創出の支援(補助率4/5)
 - ◇農業：農業機器・設備導入支援(補助率4/5)
 - ◇林業：林業機器・設備導入・原木市場の運営効率化支援(補助率4/5)
- 賃貸住宅の所有者が備え付けている家電（エアコン）を対象に、省エネ性能が高い機器への買換えを支援するとともに、住宅の省エネ性能の表示を促進することにより、電気代の軽減やCO₂排出量の削減を推進（補助率1/3） 【予算額：2,000万円】

< 2 > 防災減災・老朽化対策等の推進

防災減災・老朽化対策等の推進

- 避難所環境を改善するため、避難生活に特に配慮が必要な方を対象にした避難所運営資機材（段ボールベッド、間仕切りテント）の拡充や福祉施設事業者等が行う福祉避難所（304箇所）の備蓄品確保など環境整備を推進【予算額：3億6,000万円】
- 市民生活に身近な道路、橋りょう、河川、公園等の補修・補強工事等を実施【予算額：28億5,700万円】
 - ◇ 道路・橋りょう（道路：向日町上鳥羽線、国道162号川東（第二工区）、橋りょう：宮前橋、今熊野橋など）：20億8,000万円
 - ◇ 河川（西羽束師川、三栖排水機場）：2億2,100万円
 - ◇ 公園（遊具や公園樹木の更新など）：3億2,200万円
 - ◇ 土地区画整理事業（伏見西部第四地区、伏見西部第五地区）：1億500万円
 - ◇ 地域鉄道事業者が実施する利用環境整備（線路設備や車両設備等の整備）への支援：1億2,900万円
- 子どもたちが安心して学べるよう、老朽化した学校施設の長寿命化等を推進【予算額：16億2,000万円】
- 市民の生活環境向上のため、地下鉄駅、学校、公園、スポーツ施設、文化施設など幅広い公共施設における快適なトイレ環境を創出。早期に整備着手するため、洋式化率の低い83施設について、和式便器を順次、洋式化【予算額：8,300万円】
 - ※ すでに取り組みを進めている地下鉄駅、学校、公園に加え、その他の公共施設についても、令和7年度以降、築年数や利用者数、属性等を勘案して選定した20施設を対象に、トイレの機能性・快適性を向上させるリニューアルを実施（順次整備を進め、概ね令和10年度までに全20施設を整備）
- 地域やボランティア団体等が行う防犯対策等に対して支援【予算額：1,200万円】
（防犯カメラ設置、青パト等の防犯ボランティア、闇バイト対策等の学生ボランティア活動支援など）

< 3 > その他

その他

- 「大阪・関西万博 京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイ」を府市協調で民間企業・団体と連携して実施 【予算額：1,000万円】
- 好調につき、当初想定を上回る申請があったため、予算規模を増額 【予算額：2億3,000万円】
 - ◇ 京都安心すまい応援金：1億6,500万円
想定件数：当初240件想定→360件見込み(+120件)
予算額：R⑥予算：3億5,000万円→5億1,500万円
 - ◇ 木造住宅の耐震・防火対策：6,500万円
予算額：R⑥：4億6,500万円→5億3,000万円
耐震化対策に係る制度利用が当初の見込みより増加！
- 国民健康保険料について、医療の高度化による医療費の増や被保険者数の減少による保険料収入の減等に伴い、令和7年度に改定を行うに当たり、引上げ幅の軽減措置に向けた支援を実施（国民健康保険事業基金への積立） 【予算額：35億3,900万円】
- 区役所・支所における行政キオスク端末（住民票等の証明書発行端末）の案内業務等の充実 【予算額：900万円】

<参考> 山科区役所と包括連携協定を締結している医療法人社団洛和会では、山科区での定住・移住を促進するため、区内で新築物件を購入した職員向けに住宅応援手当を創設。本市取組に合わせ、既存物件も対象とするよう制度拡充。本市取組と併用可

ご清聴ありがとうございました。

本件に関する問い合わせ先：

京都市行財政局 財政室

TEL：075 - 222 - 3288